



TRICK

ニュース

2015年夏・緊急時にも日常の感染防止対策が重要



TRICK 代表世話人 森澤 雄司

自治医科大学附属病院・感染制御部長、准教授
感染症科（兼任）科長、総合診療内科（兼任）
副科長

TRICK ニュースの発刊にあたり、いつものように巻頭で御挨拶を申し上げます。

昨年 2014 年初めから西アフリカ地域で大流行となったエボラウイルス感染症、昨年夏に国内感染事例が確認されたデング、今年 2015 年 5 月からおとなり韓国を震撼させた MERS ウイルス感染症、新興・再興感染症の脅威は絶えることなく、一般社会に対しても少なからぬ影響を与えますが、患者の受け入れなどから対策を求められる私たち医療機関では大きな動揺をもたらすのが現実です。病院や診療所において、私たち医療従事者はどのように新興・再興感染症に備えればよいのでしょうか。

韓国で MERS 感染症が猛威を振った原因について、世界保健機関 WHO の専門家会議が 2015 年 6 月に以下の 5 つのポイントを指摘しています。すなわち、(1) 医療従事者にも一般国民にも MERS に関する認識がなかったこと、(2) 病院における感染防止対策が不十分 (suboptimal) であったこと、(3) 病院では救急外来や複数病室が混雑しており、MERS 感染症患者の近くで長時間にわたる接触があったこと、(4) 複数の病院を受診 (ドクター・ショッピング) する現実があること、(5) MERS 感染症患者が入院している病室でも見舞客や家族が多く、接触者から 2 次感染拡大を促進してしまうような風習があること、の要因が重要であったと考えられているのです。受診の結果に不満があると他の医療機関を受診する傾向や入院患者を大量の見舞客が訪問するような社会的風習は御国柄かもしれませんが、その他の点はいかがでしょうか。最近では地域医師会の先生方の御協力もあり、私たち自治医科大学附属病院のような 3 次救急施設では軽症例の受診患者数は減少していますが、年末年始などではやはり救命救急センター外来には一定の混雑があります。一般県民の皆さんにも適正な受診行動に御協力いただき、病院における不要な混雑を避けていただきたいと思います。そのためにも私たち医療側からの情報提供が必須であり、地域連携のための医療提供モデルを確立していかなければなりません。私たち TRICK も出来るだけ御役に立てるように努めたいと考えています。

しかし、一方で (1) と (2) のポイントについてはどうでしょうか。感染防止対策の最も重要な基本的な要件として、「すべての患者のケアにおいて標準予防策を実践する」ことが求められています。感染症の有無に関わらず、患者さんをケアする前後ではアルコールを原則とする手指衛生、血液・体液に曝露される可能性があるときは手袋、ガウン（エプロン）、フェイスシールド、マスクのような个人防护具（PPE）を適切に使用すれば、医療従事者が媒介するほとんどの感染伝播は防止することが出来るはずなのです。逆にいえば、何らかの感染症を伝播拡大するリスクがあっても大丈夫なように対応する具体的かつ必要最小限の対策が標準予防策ということになり、日常的に標準予防策を実践していれば前述した (1) と (2) のポイントを解決することが出来ると考えられます。たとえ緊急事態に遭遇しても日常からの感染防止対策を徹底することによって健康被害を最低限に抑えることが出来るはずです。

私たち TRICK' K は、栃木地域の医療機関、介護施設、一般県民すべての皆さんへの情報提供に努め、医療現場で標準予防策の徹底を呼びかけることをはじめとして、地域における感染防止対策の発展に寄与したいと願っています。「出来るはず」から「しています」へ、現場の実践に根付く活動を TRICK' K は目指します。

～TRICK' K 活動の紹介～

配食ボランティア対象研修会報告・2014/06/05

地域住民とともにあゆむ

篠崎内科クリニック
高木 弥生



以前は、総合病院で病棟と HIV/AIDS 外来を兼務しながら ICT の一員として活動していました。その後、高齢者対象のサービス施設で勤務する機会があったのですが、感染症予防の視点から施設内をラウンドすると多くの問題点がありました。そのような中、ノロウイルスのアウトブレイクを経験し、感染対策をすすめていく事を決意しました。

しかし、以前勤務していた病院とは異なり感染対策委員会などの組織がなく、一看護師がマニュアル作成をはじめスタッフ教育を行うことは、容易なことではありませんでした。また、施設内の環境やスタッフが実践可能な方法を考慮し、ひとりでマニュアル作成していく責任の重さを感じる度に、ICT のメンバーで様々な角度から意見を交わし相談し合いながら活動できていた事が、どんなに素早い事だったのか思い知らされる日々でした。そのような時、TRICK' K に入会しメンバーの方々にコンサルテーションできるようになった事で、本当にこれでいいのだろうか？という不安から解放され、自信を持って施設内の感染対策に取り組めるようになりました。しかし、対策を進めていくと利用者の背景には、家庭や地域があり、施設内だけの取り組みでは不十分である事に気付きました。そこで、地域行政に呼びかけ、TRICK' K と市貝町役場健康福祉課、地域包括支援センター、市貝町社会福祉協議会が連携した感染症予防の取り組みを開始しました。第 1 回目は、食中毒に関する講義と手洗いチェッカーを用いた手洗い講習会を開催しました。参加者からは、「普段の生活の中で、意識的に丁寧に洗う心掛けをするようになると思う」「テレビで見るのとは違い、聞いて実際に手洗いを行って、自分の眼で見る事ができて良かった」「今日から家族全員に広めたい」などの意見をいただきました。講習の成果を見える形でフィードバックした事で参加者の意欲向上のみならず、適切な感染対策の実践に繋がるような受講者の意見が得られました。

第2回目は、「感染症予防のポイント」というテーマで、インフルエンザとノロウイルスを中心とした講義と吐物処理の実習を開催しました。町内の医療関係者、福祉関係者、学校関係者の参加がありました。参加者からは、「何をして良いかがわからなかったが、役割分担から最後までやり方がわかった」「必要なものも分かり改めて所属の見直しをするきっかけになった」「処理の方法等、実演があり、分かりやすくて良かった」「感染症の町のネットワーク作りが今後必要かと思えます」などの意見が聞かれました。

このような地域行政と協力した啓発活動は、受講者の動機付けを得て、個人から家庭や職場、更には地域への普及を期待し、地域全体での感染対策に繋げることができると考えています。

健康のみなもと
美味しい食事と
笑顔をお届けしま〜す。



今度、皆さんの地域に伺うかもしれません
地域住民の皆さんとともに
拡げよう感染対策の輪・和・話・・・
是非、TRICKにお声を掛けて下さい！！

第1回 ICNに聞いてみよう！&講演会報告・2014/09/27

掴みどころ満載！！期日限定お悩み相談室と講演会のWワーク

JCHO うつのみや病院

感染管理認定看護師 舘野 洋子

平成26年度TRICK企画の目玉でもある新企画が、平成26年9月27日真岡市民会管公民館にて開催されました。これまで、グループディスカッションなどが中心の企画が中心でしたが、「大勢の前では恥ずかしいけど、ちょっと聞いてみたいな」という施設ごとの相談（ちょこっと相談）に対し、感染管理認定看護師（ICN）が、その施設ごとの感染対策に関する相談に対応するという新しい形の相談会と、事前に参加者等から受けた質問にQ&Aでお答えするシンポジウム、だけでなく、最新流行の感染症について講演会というものでした。企画者である私たちも、どれくらいの参加者が応募してくださるか、どんな相談が来るのかドキドキしながらの募集に対し、6施設8名のちょこっと相談になりました。

1施設ごとにICNが1時間、その施設の現状を確認しながら具体的な解答や改善策の提案をさせていただき、参加者からは「小さなことでも聞くことができた」「施設ごとについていただいたので具体的に教えてもらえた」など個別相談だからこそその充実感を得ることができました。

シンポジウムは、「ズバッと解決！教えてICN！」と題し事前に募集した感染防止対策上の質問に5名のシンポジスト（ICN）がスライドを使って答えるものでした。製氷機の管理方法から結核患者が退室した後の換気時間など、日頃ICNたちがエビデンスに基づく対策を、どのように自施設に合わせて活用しているか実践例まで紹介し、参加者にはイメージしやすいものになったと思います。講演会では、TRICKの代表世話人の森澤雄司先生より、エボラ出血熱や、デング熱などタイムリーな情報提供を頂き、興味深いものでした。報道などからは、自分達も高度な防護具を着る必要や、購入するべきものなのか、不安ばかりの時期に「大事なものは標準予防策である」と改めて理解することができ、アンケートでも参加者から満足を得ることができました。

参加者はシンポジウム、講演会までで 22 名でしたが、皆活発に意見交換ができ、笑い声あふれる会になりましたので、参加者には満足していただけたのではないかと考えております。発展途上の新企画ですが、この記事を読まれた方や、今回参加された方の口コミで、次年度は更に活気ある企画になる事を信じております。



吸引チューブを単回使用にするには誰に何て相談したらいいのかな

肺結核の患者さんには N95マスクの他にエプロン・手袋とか必要じゃないの？

そんな皆様の ちょっと相談してみたい こんな質問してもいいのかな？
「ちょこっと相談」なら個別にゆっくりと専門家(ICN)が相談に応じます。

第7回 とちぎ感染担当者情報交換会・2014/09/27

社会福祉施設職員対象情報交換会・第2弾を実施して

上都賀総合病院

感染管理認定看護師 古澤 由美子

第5回に引き続きまして、社会福祉施設での感染対策の現状把握、適切な感染対策の伝達、施設間の情報交換の場の提供を目的に、栃木地域にある社会福祉施設を対象に実施いたしました。

当日は23施設34名（看護師、介護福祉士、介護士、ケアワーカーなど）の参加をいただきました。はじめに、代表世話人の森澤先生より「介護福祉施設における感染防止対策」の講義をいただき、厚生労働省から公布されている、「高齢者介護施設における感染対策マニュアル」の紹介と感染を防止するためのリスクアセスメント、リスクコミュニケーションの活用、それから、ちょっと美味しいおまけで、ちょうど話題であったエボラウイルス感染症についてのお話を聞きました。

その後、TRICKメンバーと共にグループにわかれて、日頃の感染対策での問題点、疑問に思っている事などを思う存分語り合っていました。

「グループワークは自己の課題の解決に役立ちましたか？」

アンケート結果より

- ・他施設での取り組みはなかなか聞けないので、貴重な経験になった。
- ・聞きたいことが率直に聞けました。
- ・ほしかった情報が得られた。

また、今回のトピックスは第5回の情報交換会に参加をいただいた2施設から改善を試みた対策として「速乾性アルコール手指消毒剤の使用を初めて」「ノロウイルスの対策を経験して」を情報提供していただきました。

「改善した事項の講義は役に立ちますか？」

アンケート結果より

- ・実例がとてもわかりやすかったです。
- ・交流関係が広がりました。
- ・他施設での取り組みを参考に役立てていこうと思います。

今後も TRICK は情報交換だけでなく、同じ感染対策を実施している仲間としてのつながりを大切に、とちぎ地域の感染対策の向上に努めていきたいと思っています。



第2回・第3回感染対策実技講習会を実施して

(2014/06/28・2014/11/22)

ご要望にお応えして・・・深まる実技講習会

宇都宮第一病院

感染管理認定看護師 荒川 春海

栃木地域医療施設の感染対策手技の標準化を目的として2013年に実施した感染対策実技講習会は、大変好評を得ることができました。そのためTRICK活動の恒例行事となり、2014年に第2回・第3回を開催しました。第2回は、6月28日に行い、受講者からの希望が多かった吸引手技を実技項目に追加、またTRICKメンバー手技統一のため、事前打ち合わせの回数を増やすなど、前回の反省を踏まえて準備を致しました。

定数60名で募集したところ、49施設から149名の応募を頂いたため、急遽第3回を計画し11月22日に開催しました。定員超となってしまった方々には、お詫びとともに、可能な限り第3回の受講をお勧め致しました。

参加者の内訳は、第2回20施設、第3回は27施設から総数118名（看護師107名、薬剤

師 1 名、臨床工学技士 2 名、臨床検査技師 2 名、介護福祉士、看護補助者 5 名、事務 1 名) が参加しました。1 グループを 12 名とし、できるだけ参加者がリラックスできるようにと同施設の参加者は、同グループになるようにグループ分けをしました。

実技項目は、6 項目で TRICK メンバーと観戦管理認定看護師がそれぞれ指導を行いました。



① 個人防護具の着脱では、前回と同様におしりに見立てた風船に模擬便（バナナで作成し蛍光塗料を混ぜた）を付けてオムツ交換を実施してもらいました。その後、参加者の手や体幹にブラックライトを当て汚染部位の確認をしてもらいました。

② N95 マスクでは、自施設の N95 マスクを持参してもらい、顔の形状とフィットテストの結果に相関関係があるのか計測をして実施しました。また定性テストに影響しないように刺激物の摂取を控えてもらうよう事前をお願いをしました。

③ 尿道留置カテーテルでは、閉鎖式キットが採用されていない施設もありましたが、挿入時の感染対策の注意点を説明しながら実技を行ってもらいました。

④ 吸引手技では、滅菌手袋付のカテーテルを使用して気管吸引手技の実技を行いました。指導者は、手技統一のため、時間をかけて準備致しました。また、気管吸引カテーテルの複数回使用の施設が多いことがわかりました。⑤吐物処理では、蛍光塗料入りの模擬吐物を床にまき、2 人一組で処理を行いました。処理者と介助者を交代して全員が吐物処理の実技ができるようにしました。⑥感染対策ゲームでは、比較的簡単で基本的なケースカードを選びゲームを行いました。どの項目も参加者の方の真剣な姿や、時に笑顔で和やかな雰囲気を楽しみながら実習をしている姿を見ることができました。

《アンケート結果から》

全体で 96%以上がよかったと評価を得ることができました。定員を超えての応募数から、各医療施設で適切な感染対策技術の知識・技術の習得ができる場が必要であると思われます。また主なコメントとして、楽しかった、間違っていたところが直せた、基本がわかったなどから、実技講習会は、各医療施設で適切な感染対策技術の標準化を図るために効果があると考えます。



最後に、TRICK 活動が栃木地域にあるすべての病院の感染制御の推進に役立つことを願っています。



てんこもりモリの実技講習会に行ってみよう！！
参加して良かったと・・・感じてみよう！！
TRICK メンバーが、yell を送ります。皆で取り組む感染対策の輪！

第 30 回 日本環境感染学会総会・学術総会に参加して (2015/02/20～2015/02/21)

Local から、Majorへ TRICK 活動 3 題発表！！

上都賀総合病院
薬剤部 野澤 彰

さる2月20日(金)・21日(土)の2日間、第30回日本環境感染学会総会・学術集会在神戸国際展示場他で開催されました。医師、看護師、薬剤師その他の職種が一同に参加し、また全国から多数の演題が出されて活発な討議が行われます。今回は第30回という節目の会であり、「感染制御のさらなる推進 ー教育・啓発・人材育成ー」がテーマとして掲げられ、約7,000人という多数の参加者で盛大に開催されました。栃木地域感染制御コンソーシアム(TRICK)からは、3つの演題を報告しました。

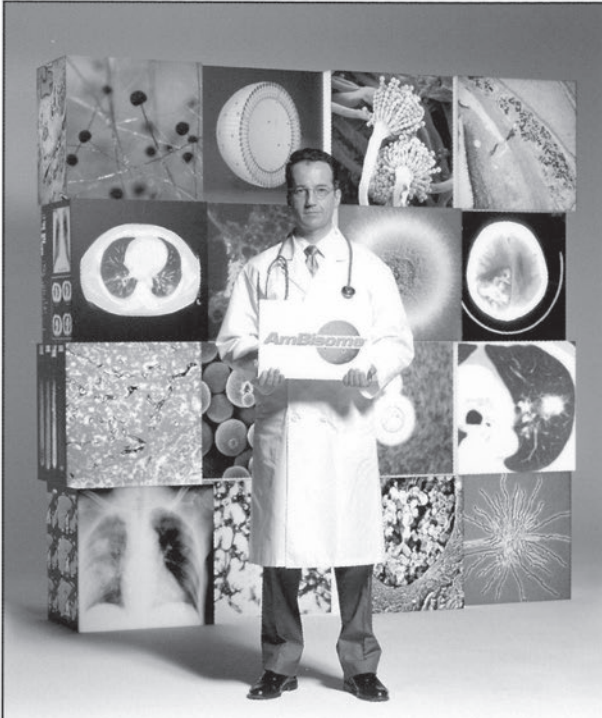
- ①「栃木地域の多施設におけるN95マスクのフィット率の検討」吉村章(日新病院)
TRICKの行事の一つでもある感染対策実技講習会の参加者に対し、N95マスクのフィットテストを行った(定量と定性)。顔の大きさとフィット率には明らかな関係はみとめられなかった。
 - ②「適切な手技を学ぶ参加型の感染対策実技講習会の効果(第2報)」荒川春海(宇都宮第一病院)
とちぎ感染対策実技講習会の開催報告である。定員60名のところ149名の応募があり、大変好評を得ている講習会である。アンケート結果から参加者の96%以上がよかったとの高い評価が得られ、各施設で適切な感染対策技術の手技が学習できる場が求められていると考えられる。
 - ③「地域行政との連携による住民への手洗い講習会の成果と手洗いの現状」野澤彰(上都賀総合病院)
市貝町の健康福祉課、社会福祉協議会と連携し、ボランティア対象の手洗い講習会をおこなった。「手洗い講習会は大変勉強になった」や「家族に広めたい」などの意見が寄せられた。このように地域住民に対する啓発の機会を持つことは家族単位での教育効果へ波及することを期待し、地域全体への感染対策に有効である。
- 昨年の環境感染学会総会は雪の東京で開催されたが、今回の神戸は快晴でした。最新の感染対策情報のアップデート、そして会場でTRICKのメンバーもちろん全国の先生方との情報交換の機会もあり、有意義な2日間を過ごすことができました。
- 次回はH28年2月19日～20日、京都で開催が予定されています。
- ぜひ参加しましょう。



【異国情緒満載の神戸 風見鶏の館】



 大日本住友製薬



ポリエンマクロライド系抗菌性抗生物質製剤 薬価基準収載
青薬・処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

アムビゾーム® 点滴静注用50mg
注射用アムホテリシンBリボソーム製剤 (略号:L-AMB) **AmBisome**®

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、
添付文書をご参照ください。

製造販売元 (資料請求先)

大日本住友製薬株式会社
〒541-0045 大阪市中央区道修町 2-6-8

〈製品に関するお問い合わせ先〉

くすり情報センター

☎0120-034-389

受付時間/月～金 9:00～18:30(祝・祭日を除く)
【医療情報サイト】<http://ds-pharma.jp/>

提携



GILEAD

2010.4月作成



オキサゾリジノン系合成抗菌剤

処方せん医薬品 注意—医師等の処方せんにより使用すること

ザイボックス® 注射液 600mg
錠 600mg

ZYVOX® (一般名:リネゾリド) 略号:LZD 薬価基準収載

■効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等
につきましては添付文書をご参照ください。

製造販売

ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

資料請求先: 製品情報センター

作成: 2013年4月

1ステップで除菌&洗浄

環境除菌・洗浄剤

ルビスタ®

Multi-purpose disinfectant cleaner
RUBYSTA®



環境表面の衛生管理に
幅広く役立ちます

- 1回分(500mL用)のパウダーが包装されているため秤量の必要はありません
- アルミ包装ですので保管が容易です
- 使用期限は3年です

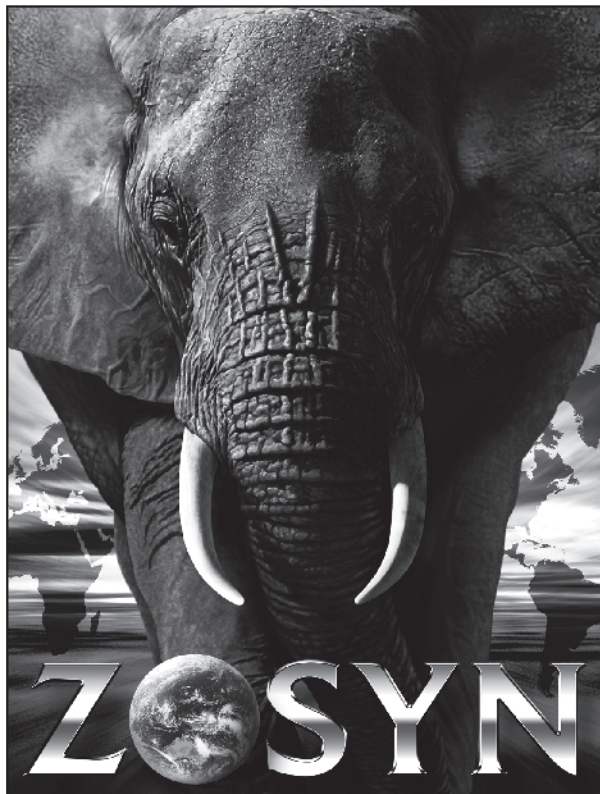
ルビスタの製品特長

- 1ステップで除菌&洗浄が可能です
- EPA®に登録され、医療施設等の環境衛生に使用されている製品です
※EPA:Environmental Protection Agency(米国環境保護庁)
- ベッド周り、トイレなどの環境表面から器具・器材まで、幅広い除菌が期待できます
- 調製液は塩素臭が少なく、様々な場所で使用しやすい製剤です
- 金属・プラスチックに影響が少ない製剤です



【お問合せ窓口】 杏林製薬株式会社 0120-093610
受付時間 9:00~17:00(月~金 ※土日祝日除く)

販売元: 杏林製薬株式会社 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地
発売元: キョーリン メディカルサプライ株式会社 東京都新宿区西新宿6丁目25番地13号



β-ラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質製剤

日本薬局方 注射用タゾバクタム・ピペラシリン

処方箋医薬品^{※1}

薬価基準収載

ゾシン® 静注用 2.25 / 4.5

注射用タゾバクタム・ピペラシリン

処方箋医薬品^{※1}

薬価基準収載

ゾシン® 配合点滴静注用バッグ 4.5

ZOSYN®

(略号: TAZ/PIPC)

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。



発売 [資料請求先]
大正富山医薬品株式会社
〒170-8635 東京都豊島区高田3-25-1



開発・製造販売
大鵬薬品工業株式会社
東京都千代田区神田錦町1-27



開発
富山化学工業株式会社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-5

～TRICK 入会施設紹介～

国立病院機構 宇都宮病院

感染管理認定看護師 齋藤 恵子

国立病院機構 宇都宮病院は、地域医療と政策医療（結核、神経・筋疾患、重症心身障害者）という、性格の異なる2つの領域を診療している370床のケアミックス型病院です。平成26年には、新病棟（6階建て、免震構造）が建ち、結核病棟、重症心身障害者病棟、呼吸器病棟、地域包括ケア病棟が入りました。残りの病棟や外来・管理棟などの建て替え計画に加えて、JR岡本駅西口の新設や病院周辺道路の整備・拡張も宇都宮市の事業に計画されており、今後5年以内に病院全体とその周辺は大きく生まれ変わるようになります。また、森林ボランティア等の協力により整備された緑豊かな散歩コースも自慢の一つです。

感染管理活動としては、感染防止加算1を取得し、日々感染対策の充実に努めています。その名で今回は、政策医療である「結核病棟」と「重症心身障害者病棟」「院内感染防止対策小委員会」における感染管理活動について、ご紹介いたします。

結核病棟（30床）では、結核病棟に入室する可能性のある職員・委託業者を対象として、定期的にN95マスクの適切な装着方法の指導とN95マスクの定量的漏れ率測定を実施しています。この活動を通じ、当院に勤務する者が、安全で安心できる職場環境を整えることも感染管理の重要な役割だと感じています。

重症心身障害者病棟（100床）では、患者さんにとって「病棟は生活する場」でもあります。感染対策チームは、関係部署（療育指導室・地域医療連携室・学校等）の職員と連携を図りながら「生活の質を落とさない感染対策」を進めています。

院内感染防止対策小委員会では、まず、「標準予防策の徹底・継続」に力を入れています。そのために、昨年度は、副看護師長会と協力して院内感染マニュアルに沿った「感染防止対策DVD」

を作成し、全部署に配布しました。また、職員のモチベーションアップに繋げるために「各部署の取り組み発表会」を年度末に企画しました。どの取り組みも現場の問題を改善しようとする熱い取り組み内容でしたが、投票形式で優秀な発表に対し、上位3位まで表彰しました。

これからも国立病院機構 宇都宮病院は「病院全体で取り組む感染対策」をキャッチフレーズに、地域との連携を図りながら、感染対策を推進していきます。



～お知らせ～

★TRICK ホームページ <http://square.umin.ac.jp/trick/index.html>

★入会申込書、出張講義の依頼書、TRICK ニュースのバックナンバーがダウンロードできます。

★入会希望の方は、TRICK ホームページより入会申込書をダウンロードして、必須事項記載の上、入会申込書内の書類提出先へ郵送・FAXまたはメールにて送付して下さい。

編集後記

ようやく第9号を発行することができました。

暑さもひと段落、《ほっと一息》と思っていたら、出ましたよ！夏のお化けならぬ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）が！！早期対応で事なきを得ましたが油断大敵ですね。皆様、お気を付け下さい。

今号では、今回初回となる「ICNに聞いてみよう」の活動や毎回好評の「感染対策実技講習会」をはじめとした、各TRICKの活動について掲載いたしました。（M・M）

TRICK ニュース

発行者：栃木地域感染制御コンソーシアム（TRICK）

代表者：森澤雄司

編集員：眞原達男 渡辺明美 編集協力：野澤 彰

連絡先：自治医科大学附属病院 感染制御部

329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1 FAX：0285-44-6535

